

① 虫
② 休み
③ 森林

④ おおぞら
⑤ すいでん

②
① イ
② ウ

③ すなおに信じない

④
A 2
B 1
C 1

③
① カ
② イ
③ エ
④ オ
⑤ ク
⑥ ア

④
① C

② かみなりがおちる

③
④
にげ
もつとも安全だ

⑤ ウ
⑥ イ

配点	
①	各2点×5=10点
②~④	各5点×18=90点
<計>100点	

①の「虫」は四画目、五画目、六画目がつながらないように気をつけて書こう。②の「休」は「体」としないように気をつけよう。③の「森」は左下の「木」や「林」の左の「木」の四画目を止めるのが正しい書き方である。④の「大空」は「おうぞら」ではなく「おおぞら」が正しい。かなづかいにも気をつけよう。⑤の「水田」は「水をはった田んぼ」のことである。「みずた」と読むこともあるが、「すいでん」という読み方をしっかりおぼえておこう。たいていの熟語は字から意味がわかるので、おぼえる時に字の意味とことばの意味をむすびつけておぼえていこう。

② 1 「スキップ」とは軽くとびはねながら進むことであるので、「心がスキップしている」とは心かとびはねているような気持ちであらわしていることになる。——線①の前に書かれている「うちに手品師のおじさんがいると思う」とのところが「あたし」がうれしくなっている理由である。

2 「さつき」の「いままでに、どんなものを取り出した？」のことばの前後に「あたし」の考えが書かれている。前のところに「あたしはもつとおじさんのことを自慢したくてならなかったのに、おじさんの手品のことばはなにも知らないのだった」と書かれていて、この「なにも知らない」ことが説明できないということとつながっている。

3 「作りごといつてるんじゃないの？」というのは、言いかえれば「うそをついているのではないの？」ということである。「さつき」が「あたし」のうちに「手品師のおじさん」がいることを信じていないのは本文四行目の「え、マジックができるの？ 信じられないな」のことばからはじまっており、その後で「人のいうことをすなおに信じない」という「さつき」の人がらが書かれている。

4 A：「手品師」であるのは「あたし」の「うち」にいる「おじさん」であった。B：本文六行目に「さつき」は「人のいうことをすなおに信じない」が「その顔にはおどろきと、うらやましさが表れていた」とあった。C：本文二行目に「どなりの席のさつきちゃん」と書いてあったことから同じクラスであると考えられる。

③ 「たとえ」の後には「〜ても」をつかうといったきまったことばの組みあわせの問題である。

① 「けつして」の後には「〜ない」をつかう。

② 「もし」の後には「〜なら、〜たら」をつかう。

③ 「どうして」の後には「〜か」のような問いかけの形をつかう。

④ 「たぶん」の後には「〜だろう」と予想する言い方をつかう。

⑤ 「まるで」の後には「〜ように、〜みたいに」をつかう。

⑥ 「どうか」の後には「〜ほしい」や「〜ように」のようなお願いする言い方をつかう。

④

1 A：建物の中が安全だということは人間に電気が伝わることはないと考えられる。B：近くに建物がない場合は車の中が安全であるという話である。C：はおわりに「黒い雲が見えたら、雨がふりだすまえに建物の中に入るのがいいんだ」とあるので、雲が見えたりかみなりが鳴っていたりするときはかみなりがおちる危険があるということになる。

2 ねらいをつけられたということはその後でうたれてしまうかもしれないということである。かみなりにうたれるとはどういうことかを考えながら文章を読みなおしていこう。「かみなり」ということばをヒントに本文をたどっていくと早く正しい答えが見つかりやすい。

3 ここでの「まにあう」とはかみなりがうたれたり、近くにおちてこわい思いをしたりせずすむ、ということである。かみなりがうたれたり、かみなりが近くにおちたりしないというのはかみなりからにげられるということである。

4 「いちばんだ」と同じ意味のことばをさがすのであるが、ここではかみなりの前ぶれになる「黒い雲が見えたら」どうするかという話だったので、「かみなりが鳴っているときにはどうするのがよいか」と考えて答えをさがすことが早く正しい答えを見つけるためのよいやり方である。

5 「……なんて考えてはだめ」とあるので、ア、ウの前に考えてはいけないこと、つまり心配しなくても安全だろうといったよくない考え方が書かれているものをさがせばよい。

6 本文一行目に「外で遊んでいるとき、かみなりが鳴ったら」とあり、その後からはかみなりが鳴っているときにどうすれば安全かが書かれていることから答えはイだとわかる。